

# 意欲ある農家 変わる白根の農業

## 経営規模5ヘクタール以上と農産物販売金額700万円以上の農家が増加

平成二年二月一日現在で行った「'90世界農林業センサス」の結果がまとまりました。センサスは、農業の実態をつかむため昭和二十五年から五年ごとに行われていた国の統計調査です。調査結果を見ると本市農業の姿は、農家数が減少しながらも、意欲的な農家が数多く見られ、経営規模の拡大、販売額の上昇など優良な農業地域を維持しています。

いかに農業に一生懸命取り組んでいるかが分かります。意欲的な農家が数多く存在

### 経営規模5ヘクタール以上の農家が増加

経営規模別農家数では、五ヘクタール以上の農家が大幅に増加しました。この五ヘクタール以上の農家の借入耕地の平均は、二・一三ヘクタールです。稲作を基幹とする農家では、経営耕地の拡大が生産性の向上に必要です。五ヘクタール以上の農家の借入耕地が二ヘクタールを超えるものもみられます。また、農産物販売金額規模別農家数では、七百万円以上販売する農家の構成比が一七・一％（前回一〇・九％）と増加しました。

今回のセンサスでは、農業情勢の変化を踏まえ、統計上大きく改正した点が三つあります。

一点目は、農家の定義を全国統一し、経営耕地面積十ヘクタール以上を農家としたことです。前回までは東日本と西日本では、耕地利用率と土地生産性に差があるとして、西日本の基準を五ヘクタールとしていたが、現在では格差がみられなくなつたために改正されたものです。また、例外規定農家は、農産物販売金額が十万円から十五万円に引き上げられました。

### 果樹と施設園芸で経営規模を拡大

今回の調査の特色に、果樹の経営耕地面積の増加と、農産物販売金額一位の部門別農家数で、施設園芸の増加がみられます。経営規模の比較的小さい農家では、稲作よりも、果樹や施設園芸で経営規模の拡大を図っていることがうかがえます。

### おことわり

二点目は、調査農家を販売農家と自給的農家に区分したことです。販売農家は、経営耕地面積が三十ヘクタール以上か農産物販売金額が五十万円以上の農家をいい、自給的農家は、経営耕地面積が三十ヘクタール未満で、なおかつ農産物販売金額が五十万円未満の農家をいいます。販売農家は、商品生産を主とした目的で農業を営む農家で、自給的農家は、自家用の農産物の生産を主とした目的で農業を営む農家とされています。本市では、百八十八戸（八・八％）が自給的農家として集計されました。

三点目は、農作業受託を兼業（自営業）と位置付けていましたが、

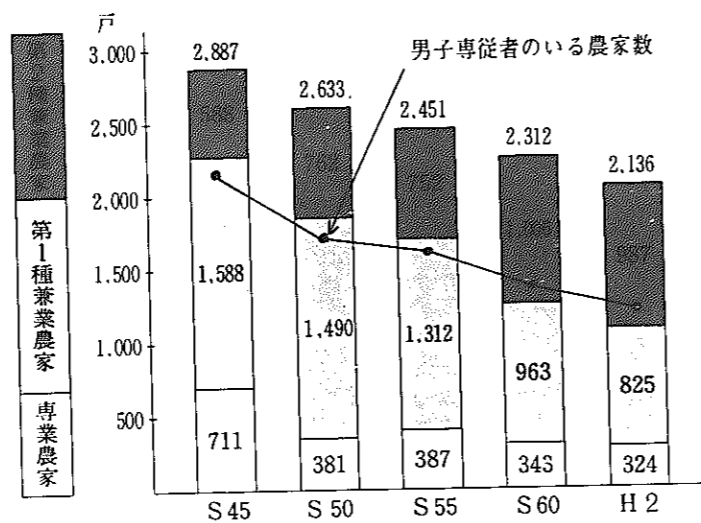
### 専業・第一種兼業農家で50%を超える

本市の農業振興は、経営規模の拡大と生産の複合化、中核的

日本経済の発展は、農業においては、農産物の輸入自由化や内外価格差の縮小を求められ、農家に厳しい状況をつくり出しています。このような中で行われた、今回のセンサスの結果では、総農家数は二千三百三十六戸で昭和六十年より七・六％（百七十六戸）減少し、経営耕地面積は四千六百九十二ヘクタール（百七十三ヘクタール）の減少となっています。しかし、調査結果を分析すると、意欲的な農家が数多く存在し、高い農業生産力を維持していることが分かります。

専業別の農家数の構成比は、専業農家一五・二％、第一種兼業農家三八・六％、第二種兼業農家（兼業が主で農業に従）四六・二％となっています。専業農家はほぼ横ばい、第一種兼業農家は減少傾向、第二種兼業農家は増加傾向にあります。専業農家と第一種兼業農家の合計比率は五〇％を超えています。県内だけでなく全国的に見ても、

### 専兼別農家数と男子専従者のいる農家数



### 経営耕地面積

	総面積	田面積	うち稲面積		畑面積	樹園地
			0.5ha未満	0.5ha以上		
S 55	4,965	4,295	4,058	335	335	335
S 60	4,865	4,194	3,729	324	324	347
H 2	4,692	4,029	3,276	280	280	383

### 経営耕地面積規模別農家数

	経営耕地面積規模別農家数							
	0.5ha未満	0.5ha以上1.0ha未満	1.0ha以上1.5ha未満	1.5ha以上2.0ha未満	2.0ha以上2.5ha未満	2.5ha以上3.0ha未満	3.0ha以上5.0ha未満	5.0ha以上
S 55	381	292	259	268	350	362	475	64
S 60	409	249	225	232	303	290	514	90
H 2	374	233	218	197	251	256	486	121

### 農産物販売金額規模別農家

	農産物販売金額規模別農家数									
	販売なし	50万円未満	50万円以上100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上500万円未満	500万円以上700万円未満	700万円以上1,000万円未満	1,000万円以上1,500万円未満	1,500万円以上
S 55	51	262	187	366	398	701	291	131	37	27
S 60	47	247	168	289	333	650	326	162	53	37
H 2	65	202	144	265	266	508	321	221	83	61

### 農林水産大臣から表彰

今回の農業センサスの優秀実施市町村として、本市が農林水産大臣から、十二月十二日表彰されました。この受賞は、調査対象となつた皆さんのご協力によるものです。大変ありがとうございました。今後ともご協力をお願いします。

## 白根発・農村と都市を結ぶ地域づくりを考えるシンポジウム

今、足元から考える  
家族・農村・地域

米の市場開放をはじめ農業を巡る問題が、国際化とともにクローズアップされています。しかし、私たちは国際化や日本の農業を考え、解決する力は持っていません。そこで、足元から家族・農村・地域を考え、それぞれが行動するためのシンポジウムを開催します。入場は無料で、どなたでも参加できます。

□とき 2月24日(日) 午後1時30分～5時

□ところ カルチャーセンター

□主催 「白根発・農村と都市を結ぶ地域づくりを考えるシンポジウム」実行委員会（代表市農業委員会会長 長谷川昭二）

□後援 新潟県、県農業会議、県農協中央会、県農業経営者協会、全国農業新聞、日本農業新聞、新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、新潟総合テレビ、TNNテレビ新潟放送網、NT21新潟テレビ、朝日新聞社新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、月報農業新潟、安全な食と環境を考えるネットワーク、県生活協同組合連合会、(株)農山漁村文化協会、白根市

□内容 (スケジュール)

●午後1時30分～2時

基調講演「白根から日本・世界の農を考える」  
明治大学教授 滝沢昭義

●2時～5時

パネルディスカッション「今、足元から考える家族・農村・地域」

コーディネーター—滝沢昭義 パネラー—板本洋子、小沢慎一郎、小松光一、関根喜八郎（市農政対策協議会事務局長）、山下惣一

(2時～2時20分)

提起「農業としてよりも農家・人間として」  
佐賀県農作家 山下惣一

(2時20分～2時40分)

提起「おもしろ農民の地域づくり」  
法政大学講師 小松光一

(2時40分～3時)

提起「子育て・後継者・老後」  
長野県農家 小沢慎一郎

(3時～3時20分)

提起「結婚・嫁・婿」  
日本青年館 結婚相談所長 板本洋子

□問い合わせ 農業委員会事務局 (☎373-2111)

(☎222)